



発行：NPO法人とよなか市民環境会議アソシエーション 21
発行責任者：塩見 光夫
連絡先：豊中市中桜塚1-24-20
環境交流センター内
Tel:06-6844-8611 Fax:06-6844-8668

P.1 地球温暖化防止イベント
/P.2 温暖化防止プロジェクト/
P.3 環境交流センター・環境と私/P.4 竹炭プロジェクト/P.5
花と緑/ P.6 自然部会/P.7 豊
中市/P.8 スケジュール

2022年（令和4年）春号 NO. 75 （通巻第93号）

地球温暖化防止イベントを開催

2月16日、環境交流センターにて地球温暖化防止イベントが開催されました。第1部は昨年実施できなかったとよなかエコ市民賞の表彰式、第2部は地球温暖化防止講演会が行われました。

●第1部 とよなかエコ市民賞表彰式

とよなかエコ市民賞は地球温暖化防止や自然との共生など、環境に関わる活動を積極的に行う団体等を表彰する賞です。今年度は次の3団体が受賞されました。刀根山高校生物エコ部：里山や地域の生物調査・保全活動が続ける中、ホテルの再生をめざす取り組みについて、地域の方々や大学、公民館とともに協働で取り組んでいる。合同食品株式会社：小さな子どもにも安心できる素材と製品づくりを追求し、材



この姿もすっかりおなじみ、合同食品(株) 和田社長

料の生産から販売まで無添加素材を使用し、豊中産無農薬ジャガイモの使用など環境に配慮した取り組みをしている。マリンフード株式会社：本社では90%以上のLED化や熱回収コンプレッサーやハイブリッド車を導入し、エコドライブを実践するなど、CO₂排出抑制に取り組む、環境に配慮した事業活動を行っている。皆様おめでとうございます。

●第2部 地球温暖化防止講演会「2050年ゼロカーボンシティの住宅とは」

講師には積水ハウス株式会社環境推進部温暖化防止推進室課長木戸一成（きどかずしげ）さんをお招きしました。

現在日本では2030年までに13年度比で温室効果ガスの排出量を46%削減することが目標とされています。そのうち家庭においては66%の削減が求められています。「経済と環境の好循環」をつくるための産業政策や成長が期待できる産業分野の実行計画をまとめた「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」でも住宅・建築物における省エネ性能の向上、具体的にはカーボンマイナス住宅やゼロエネルギー住宅・建築物（ZEH=Net Zero Energy House、ゼッチ）の推進が挙げられています。

ZEHは「高断熱性」「高効率設備」で消費エネルギーを抑え、さらに太陽光発電等の「創エネルギー」でそれをおおむねゼロ以下にすることがで



きます。ZEHのメリットは①高断熱性や高効率設備により光熱費が抑えられる、②高断熱性により一年を通して快適な生活が送れる、③災害の発生に伴う停電時も太陽光発電や蓄電池により安心、なこと。積水ハウスの2020年度の新築戸建におけるZEHの比率は91%、2022年度までの目標を前倒して達成したとのことです。

積水ハウスで賃貸住宅に住む若い世代にアンケートを取ったところ、地球環境を意識した取り組み等に関心が高く、省エネ住宅も購入したいという思いがあることが分かりました。知名度の向上や、初期導入費用が高い、メンテナンスに費用がかかる等の課題がありますが、長期的にはいいことづくめのZEH。リフォームでのZEH化も可能とのこと、新築住宅だけでなく既存住宅にも広がることが期待されます。（村上知世）



「ヒートル・パネル」。温水器以外にも幅広い用途があるとのこと。

3月15日に、ご自身で太陽光発電や太陽熱温水器作り、断熱リフォーム等を行っているおうちを見学するルームツアーを開きました。

おうちを見学していただいたのは、地球温暖化対策事業のアドバイザーでお世話になっている(有)ひのでやエコライフ研究所の山見拓（やまみひろく）さん。京都市在住のため、おうちの様子をオンラインで中継していただきました。山見さんのご自宅はなんと、約10年間空き家だった築70年の家を業者に依頼せずご自身でリペアしているのだとか。再生可能エネルギーの導入や断熱リフォームを「今住んでいる家」に「自分で」行うためのノウハウを学びました。

「エネルギーの自給自足」と言うと、屋根に太陽光パネルがついた家を想像するのではないのでしょうか。太陽光発電で家の電気がすべて点くようになれば、自給自足できていそうですね。

お湯は太陽熱で

山見さんの家にも太陽光パネルが設置されていましたが、作られているのは電気だけではありませんでした。外壁に設置されたパネルは「太陽熱温水器」で、お風呂のお湯を沸かすのに使っているとのこと。太陽光は電気だけでなく「熱」として利用できるのもいいところで、夏場は水を足さないと水温が50℃を超えることもあるそうです。山見さんが使用しているのはNPO法人エスコットが販売している「ヒートル・パネル」。簡単に組み立て可能で、メンテナンスも年に数回ホースの締め直しをすることと、冬場の凍結に気をつけること以外は、特に手入れせずにごさせているそう。

一般家庭で使用するエネルギーは、主に電気とガス。天候や気温に左右されますが、ガス給湯にかかるエネルギーの一部を太陽熱でまかなうことができれば、CO2排出量や光熱費の削減につながります。

ポイントは断熱

古い家は断熱性能が低く、冬は特に寒い印象がありますが、築70年を超える山見さんの家の壁には断熱のために羊毛を入れていて、冬でも暖かく過ごさせているそうです。

断熱という視点で欠かせないのが、熱の出入りが最も多いと言われる窓の断熱。山見さんの家は窓が多いため、部屋の熱が外に逃げやすい造りになっていますが、すべての窓に中空ポリカーボネート板の内窓を作ったことで、暖かさがぐんとアップしたそうです。日本の住宅の3分の2は断熱できていないと言われていますが、冬の厳しい寒さを乗り越えるには、暖房機器を買い揃えるよりも家の断熱が先決かもしれません。



壁に羊毛を入れる作業

あなたもチャレンジしてみませんか

他にも雨水タンクの水をトイレや打ち水に使ったりと、いろんな自給自足にチャレンジしている山見さん。「エネルギーの自給自足をめざす上で、現在使用しているエネルギーをまるまる作るのではなく、もとの使用量を減らしながら、なるべく再生可能なものを使うという視点でやっている。」というお話がありましたが、これからゼロカーボンをめざす豊中において、多くの方に広めたい考え方だと思いました。

いきなりCO2排出量をゼロにしたり、電気をすべて自家発電にしたりするのは無理な話でも、電気やガスの無駄な消費を減らし、効率良く使うことから始めれば、ゼロカーボンも夢じゃないのではないのでしょうか。

持ち家・賃貸にかかわらず、お金をかけずにできる取り組みもあります。まずはその方法を調べたり考えたりすることが、ゼロカーボンへの第一歩かもしれません。

(中島聡子)



3月13日、環境交流センターにてリサイクル工作を開催しました。今は亡き父方の祖母も不用になった大人の布

団からジュニア布団を作ってくれたなあと懐かしく、当日を心待ちにしていました。講師は元「あいの会」の吉田まち子さんです。

まず座布団の中綿を整えます。組み合わせたり重ねたりして正方形に整えるのですが、パズルのような作業に参加者は少し苦戦されているようでした。しかし座り心地を良くするためには重要なポイントです。

その次に側生地（中綿を直接包むカバー）を縫います。綿は干すと膨らむので少し大きめが良いとのこと。なるほど！天然素材ならではの。

縫い上がれば、中綿を入れていきます。中綿を押し込むと形が崩れたり、はがれたりするので側生地をかぶせるようにして入れていくのがコツです。全体が入れば四隅を整え、入れ口を縫いとじます。この辺りでお昼休憩に入りました。

午後からはカバー作りです。ここで最難関？のファスナー付けがやって来ました。先にファスナーを付けてから縫うのが基本のようですが、先に三辺を縫ってしまった方が数人…ある方は断念してファスナーを付けないレシピに変更されていました（これはラクチン!）。



ファスナーなしタイプ

こうして世界にひとつだけの座布団が出来上がりました。ご自宅のダイニングチェアに合うよう大きさやデザインを決めて来られた方もありました。吉田さんの「自分で作った物は大切にしますよ、安く買った物は簡単に捨ててしまうけど」という言葉にはうなずくほかありません。100均やファストファッションはありがたい存在ですが、



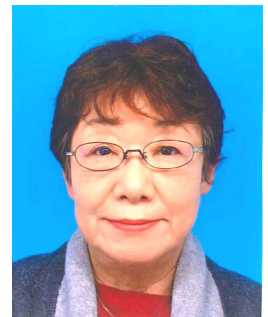
さらに椅子に固定できるひもも作られた方も

SDGsの目標中12番「つくる責任つかう責任」にも示されています。モノの寿命について改めて考えさせられた講座でした。（村上知世）

環境とわたし

《66》

神尾 由美子さん 花と緑のネットワーク とよなか

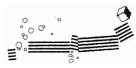


今年で73才になります。知らない間に歳をとりました。豊中の千里川のそばで生まれて育ちました。子どもの頃は川でクローバーやれんげの花冠を作り、メダカをすくって遊び、庭のざくろやみかんを採って食べ、四季の花を眺め、鳥やせみの声を聞き、軒下のつばめの巣作りや子育てを見て来ました。

訳あって2年前に引っ越しました。以前とは違い今は小さなベランダで花を育てる程度です。そんな時小学生時代の友人からとよっぴー農園

のことを聞き、すぐに参加させていただきました。

自然環境を大事にしたとよっぴーを使い一つの野菜や花を育てる大変さや思いやりを見て感動しました。いつまで頑張れるか分かりませんが自然にふれあい、太陽の下で身体を動かせる喜びにひたっています。みなさまも、特に若い方たち、機会があればどんどん自然にふれあう機会をお持ちになっていただきたいと思います。



竹炭プロジェクト

好きをボランティア活動に ～竹炭プロジェクトの活動・竹炭焼き編～

竹炭プロジェクトは千里中央公園ならびに新千里北町の千里緑地の竹林間伐、竹林整備をメインに活動しています。楽しいボランティア活動がモットーで楽しみながら体を動かし、気持ちの良い汗をかき、自分の体力に応じた動きで無理をせず、ケガをせず、メンバーと一緒に作業を楽しんでいます。めざすは嵐山のような竹林風景との思いを強く持っています。

その一部を竹炭にして市民の方にご利用いただいています。炭焼きは昔は全国で実施されていましたが、手間暇がかかり、大変な労力が要される割に収入につながらないこともあり、近年ほとんど実施されていません。

竹炭焼き作業ではまず、ある程度窯の温度が上がれば竹酢液を採取します。竹酢液は出て来る煙を冷やして液化させます。窯の温度が低い状態では炭の完成が遅れたり、有害物質のタールの量が増えるため90℃以上に



上がれば採取します。

焼き上がりは窯の中の状態が見えないので出て来る煙の状態で見えます。初めは黒みを帯びた煙から窯の温度が上がるにつれて白くなり、最終的には青から透明になります。これが窯を閉めるタイミングになりますが、見極めがなかなか難しく、皆の意見が一致しません。いつも迷います。

何回行っても満足のいく製品に繋がらないことが多くあり、失敗することもあります。今回のケースは満足のいく出来上がりでした。 (岡本武司)

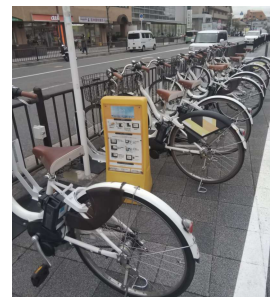
気になるワード

グリーンライフ・ポイントのお話。

早ければ2022年度中に「グリーンライフ・ポイント」制度が全国で導入されます。環境に配慮した行動、エコな行動をした個人にポイントが発行され、お得感を持たせることにより今まで環境に関心のなかった人に行動してもらうきっかけになることが狙いです。

対象となる行動は、①衣：服のリユースやサブスク（借りるサービス）の利用等、②食：賞味期限間際の食品の購入や食べ残しの持ち帰り等、③住：再生可能エネルギーの導入や省エネ製品への買い替え等、④循環：買物の際プラスチック製スプーン等の辞退、簡易包装の商品の購入等、⑤移動：カーシェアやシェアサイクルの利用等、の5つの分野です。

1面で登場した積水ハウス㈱の木戸さんも「エシカル商品」を選ぶことは企業にとって何よりのメッセージになるとお話をされていました。環境へ配慮した取り組みを行っている企業はまだ一部ですが、消費者の意識が変わり、頑張る企業を応援する人が増えることで、企業側の成長にもつながれば、正に「三方よし」と言えるのではないのでしょうか。(村上知世)



豊中各所でも見られるようになったシェアサイクル



花と緑のネットワークが「とよっぴー」の製造を担い、農園と一体的な取組みができるようになった時から内部で温めていた課題に「ジオラマ」制作がありました。施設見学やイベントの際、製造施設と農園全体を俯瞰（ふかん）できる造形物を展示することで事業と活動の全体像を理解していただくためです。

日常の活動に追われなかなか具体化しませんが、市役所ロビーで開催予定の「とよっぴー

展」で展示しようと実際の100分の1を目途に今年2月に入って作業に着手しました。

最初に図面を描き、建屋（堆肥製造と熟成施設）を作製、そして周辺の農園づくりを始めました。畑はダンボールを活用して畝を設け、粘土で作った作物類（大根・人参・白菜・スイカなど）を丁寧に植え、樹木類は鉄道ジオラマ用を使いつつ「つまようじ」も利用して施設を囲む形で東西南北の畑が完成したところです。

作業日数は約27日間、毎日夜遅くと早朝にかけて5時間程度没頭し、「とよっぴー展」の開催日3日前に完成しました。

直陸する飛行機の造形物を空中に配置するのは不可能ですが、大阪国際空港が一望できる「飛行機の丘」も設けています。

縦90cm、縦180cmの苦心のジオラマです。可能であれば環境交流センターのロビーで展示できたらと願っています。（中村義世）

食品ロスで来場者と対話 家庭の生ごみの堆肥化を訴え

3月10日・11日の2日間、第二庁舎ロビーで毎年恒例の「とよっぴー展」を開催しました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響を懸念し、展示のみに特化しましたが、今回は来場者との会話を重視するとともに、可能な限り動態展示を重視しました。

また、2日間にわたって家庭の生ごみを堆肥化する実演・講習を企画、お馴染みのダンボール堆肥の実演に加え、神奈川県葉山町生まれの生ごみ処理機「キエーロ」を使った説明も行い、身近に



取り組んでいただけるようにモニター募集も行いました。

来場者は延べ142人と少なめでしたが、感想では「ジオラマ」での人物配置の提案や「生ごみの堆肥化」に関する声が寄せられていました。

市の「食品ロス削減推進計画」が策定されました。これによると2027年度までに2000年度比で約8千トンの削減をめざしています。

これからも給食残渣（ざんさ）類のリサイクルをはじめとする資源循環を訴えていきます。

（中村義世）



3月26日、中央公民館講座室にて2021年度第3回自然学習講座を開催しました。荒天にも拘わらず、26人の参加者がありました。

問題は外来種だけではない

外国からカダヤシなど強力な外来種が入ってきた後、これまで人里でふつうにみられたメダカなどが絶滅危惧種になってしまったりして、日本の生態系が大きく変わってしまったのを目の当たりにしてきただけに、これまで私たちは「外来種」の侵入については随分注意を払ってきました。ところが、「在来種」と言われるものについても問題だらけ、というのが今回のテーマで、京都大学農学研究科准教授の下野嘉子さんにお話しいただきました。

緑化における「在来種」

道路建設などで山を削る切土の法面（斜面）緑化には、以前は安価で大量に入手が可能な外国産の植物種子が用いられてきましたが、それが原因になって在来生態系を圧迫・混乱させる恐れがあり、近年ではヨモギなど「在来種」の種子が用いられることも増えてきました。ヨモギは全国に広く分布しているため、「在来種」として日本中で緑化材料として用いられるのに好都合な植物です。そのため、採取した種子を安く産業用に確保する目的で、中国など外国で大量に栽培再生産して輸入された「日本産逆輸入種子」が「在来種」として各地の緑化に用いられるようになってきました。



法面（のりめん）緑化

自然生育地から採取したヨモギDNAの塩基配列を調べると、東日本と西日本とでは少し違うことが分かったそうです。また同種とされる中国産のヨモギとも違っているそうです。そこで法面緑

化に用いられたヨモギを調べると、西日本で使用されたものの多くが東日本産であり、中国産らしきものも混じっているそうです。



ヨモギ

分かってきたこと

このように「在来種」として考えられてきたヨモギですが、以下のことが分かりました。

- ① 遺伝的には一様ではないこと。
- ② 緑化に用いられる種子は、郷土のものではなく他国で大量生産された「日本産逆輸入種子」であること。
- ③ 同一種であるとされてきた中国産ヨモギは別種である可能性が高いこと。
- ④ 本来の生育地でない地域に移植した場合、適応度が低く、緑化効率が下がること。

今後私たちがなすべきこと

しかしながら、それが分かったからと言って、すべて郷土産の在来種種子を用いることはほぼ不可能なのが現状です。まず郷土産の在来植物種子はほとんど流通しておらず、流通しているとしても、外国産や日本産逆輸入の種子と比べて明らかな価格差があり、価格重視の入札制度では太刀打ちできません。

これらの現状を理解し、より多くの人々に啓発すること、行政には地域性種苗の遺伝的地域性を保証する制度や、必要な予算を確保する仕組みを策定するよう求める必要があります。

これまで、造成現場の緑化植物が外国産の牧草やオオキンケイギクなどでなければ一安心していたのですが、その先も見据えていく必要であることがよく分かりました。（柿本修一）

第2次豊中市地球温暖化防止地域計画（改定）

～とよなか・ゼロカーボンプラン～を公表

豊中市では、令和3年2月に吹田市と共同で「気候非常事態宣言」を行い、2050年に温室効果ガス実質ゼロに向けて取組むことを表明しました。

これを受けて「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画」を改定し、令和4年3月に公表しました。

これまで、2050年度までに1990年度比温室効果ガスを70%削減することを長期目標としてきたため「チャレンジ・マイナス70プラン」の愛称で取組みをすすめてきました。

この度、長期目標を「2050年温室効果ガス実質ゼロ」としたことから、あらたな愛称を募集し「とよなか・ゼロカーボンプラン」に決定しました。

太陽光パネル・蓄電池の 共同購入参加者募集中！！



みんなの
おうちに
太陽光

太陽光パネル・蓄電池を大阪府民みんなでおトクに購入する共同購入の参加者を募集します！

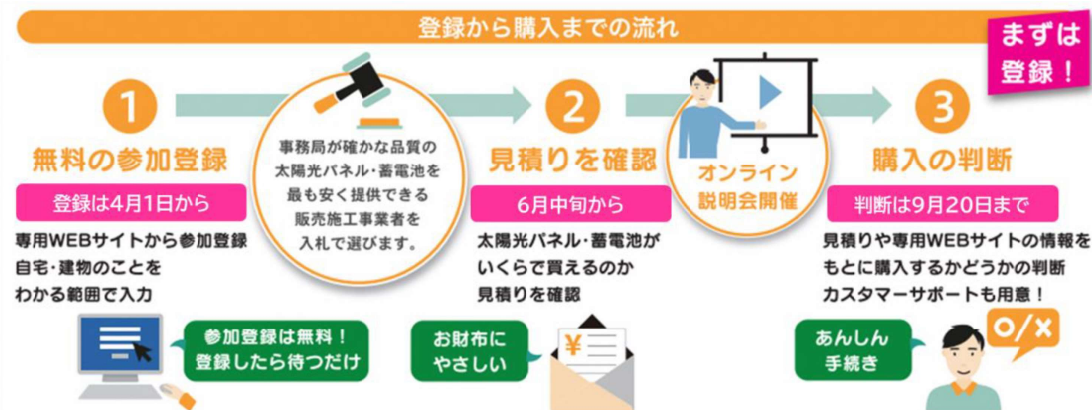
電気を自宅の屋根で発電できる太陽光パネル、発電した電気を夜間も有効に活用し災害時にも役立つ蓄電池。この機会におトクに購入しませんか！？



参加登録募集期間:4月1日～9月20日

みんなのおうちに太陽光

検索



【お問い合わせ】

おおさか みんなのおうちに太陽光事務局

0120-758-300(固定電話・携帯電話) 平日 10:00～18:00

スケジュール

詳しくはホームページや広報とよなか、環境交流センターのおしらせなどをご覧ください。また新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事が中止や延期になる場合があります。事前のご確認をお願いいたします。

竹炭焼き、竹の間伐体験

千里中央公園

ほぼ毎月開催 詳しくは事務局まで



制服・学用品の回収

5月8日(日)～6月3日(金)

9:00～17:00 環境交流センター



とよっぴー地産地消採りたて野菜市

毎月第4木曜日(祝日の場合はお休み)

10:00～売切れまで

さわ病院



自然ふしぎ発見クラブ 原田城跡・勝部遺跡収蔵庫見学と春の自然観察

5月21日(土)

10:00 阪急曽根駅集合～12:00現地解散

定員5歳以上の子ども13人(先着順)

5月18日(水) 締切



おもちゃ病院

毎月第2土曜日 10:00～11:30

環境交流センター

1世帯1点まで、修理費実費



eco検定受験対策セミナー

6月11日(土) 10:00～17:00

環境交流センター

定員10人 6月9日(木) 締切



とよっぴーの有料配布

5月14日(水)、25日(土)

6月11日(水)、22日(土)

10:00～11:00

緑と食品のリサイクルプラザ



とよなか市民環境会議アジェンダ21 令和4年度総会

6月27日(月) ※変更される場合があります。

環境交流センター



編集室から

▼今年も年度末の締切り地獄で窮乏の日々。小学生の夏休みの頃のような体力もなく、4月になると発熱に見舞われた。1日休んだら熱は収まったが、コロナ検査で陰性を証明しないと外に出られず、人にも会えず。自分が蒔いた種とはいえ、いやになる。(R)

▼昨年秋、春日神社の森のフェンスに「風致保安林復旧工事」という看板がかけられた。12月からフェンス際の本が50本余り次々と伐採されその跡地にコバノミツバツツジ・サクラ・ウメ・マツ等が植林され森が明るくなった。保安林の育つのが楽しみだ。(M)

▼ほぼ、1月中旬より花と緑の活動から離れている。4年に1回めぐってくる課題のために時間とエネルギーを使う。ボランティア活動でもそんな場面が少なからずあるが、こちらの方は日々神経を酷使し、年を重ねるほど体力の低下も伴い、回復に時間がかかる。ニュースレターが発行される頃には、遠い過去の出来事になってるだろう。(N)

▼実家の祖父が入院して以来、約1年間手つかずになっていた畑を父が受け継ぎ、3月にじゃが芋の種芋が植えられ

ました。かぶ、水菜、ピーマン、茄子…凝り性の父の夢は膨らむばかりのようです。まずは娘を連れて芋掘りに行くのが今の楽しみです。(K)

▼毎年4月になると時折どこかからうぐいすの鳴き声。いるんだ、くらいにしか思っていなかったが、今年は一日中高らかに鳴くこともあり毎日の楽しみに。かなり近くで聞こえることもあり、羽をもう一振り、うちの庭まで来てちょうだい！みかんでも置いておくから…(T)

《広報チーム》

R柿本、E新開(お休み)、M馬淵、
N中村、K小浴、T村上

とよなか市民環境会議アジェンダ21

TEL:06-6844-8611

Eメール:jimukyoku@toyonaka-agenda21.jp

https://toyonaka-agenda21.jp/

豊中市立環境交流センター

https://kankyokoryu.jp/